

藤沢市立中里小学校

研究テーマ：できた！わかった！があふれる授業 ～のぼそう 聴く力～

1 実践の目的

「のどかな姿うけついで・・・広く豊かに土かおる（校歌より）」中里小学校は、自然豊かな地域にあり、地域の教育力、またその環境を生かした教育活動が行われている。

「全国学力・学習状況調査」の結果からは理科学習への関心・意欲、実際の体験学習の充実はうかがえる一方で、国語・算数における理解、学力については本校の課題となっている。

この児童の実態をふまえ、本校の特色である地域の人との出会いを大切にしたい体験学習の充実を図るとともに「基礎・基本の学力」と学び合いの基本となる「聴く力」をのぼすことを研究テーマとした。国語部、算数部、体育部、さらには教科担任制の理科教育を柱として「できた！わかった！」があふれる実践研究を進めている。

さらに、かながわ学びづくり実践研究推進指定を受けた小・中学校3校が地域の子どもたちが育みたい児童・生徒像と、保護者、地域、教職員が連携して育てたい児童・生徒像を共有する。その共有したイメージの元で、児童・生徒の育成のために、学校と家庭・地域がともに子どもたちの学びと成長を見つめ、支え、喜び合える地域の学びづくりを進めている。

2 実践の内容

(1) 3校校内研究交流の体制づくり

小・中学校3校で、かながわ学びづくり実践研究推進校の指定を受けたことから、ま

ず3校がどのように校内研究に取り組んでいるのかを、共有する体制をつくり、可能な限り、お互いの授業、実践を見合い、ともに研究を深めていく体制づくりを行った。

(2) 学校間連携の授業実践、研究例

① 3年生「あまりのあるわり算」(10/3)

研究テーマに迫る手立てとして授業者から「児童の中の達成感」と「対話を通して聴く力、話す力を身に付ける」が示され研究授業が行われた。研究協議では、児童が学びの足跡を確認し自力解決できる板書の工夫、問いのあり方、教具や考えの共有の仕方と深め方について、小・中学校の先生方、指導主事、それぞれの立場や現状から活発な意見交換が行われた。



② ICT を活用したプレゼンテーション力の育成」の講演会(1/16)と講師による模範授業(1/29)

メインメッセージを常に意識すること、プレゼン力を高めることで学びあいが深まること、教育におけるICTとの向き合い方などを考える機会となった。ICT活用(特にAI)のリスクにもふれながら、学びには「人間らしさが大切なこと」、ICT活用が教師力を高めるのではなく「教師力がある教師がICTを活用することが重要」という言



葉はこれからの学びづくりの指針となった。

(3) 地域の人とつながり、学ぶ実践例

① 農業にふれ、自分の食について考える学習

2年生は一年間を通して野菜づくりを農家の方と行いながら、土作りや日々の管理の大切さ、収穫の喜びを感じるとともに、

「冬野菜収穫パーティー」等をとおして、

食への感謝、地域の方々やふるさとへの感謝を味わう学びを行っている。



3年生も農家の方とともに「えだまめ、にんじん、大根、ブロッコリー」などの収穫だけでなく「タマネギの苗うえ」「菜花の片付け」なども行っている。体験させてもらうだけではなく、農作業

の力となって、地域の人と土に触れる活動をしている。



② 4年社会「地域で受けつがれてきたもの」

地域の老人会「ゆめクラブ」の方と連携し、社会・総合的な学習の時間の授業を行った。

当日(12/9)は中里地域にある3つの神社の太鼓連の方々、宮原寒川社の神輿、そして御所見音頭保存会の方々が一堂に集い、「ふるさと、御所見・中里」の歴史と伝統、地域の人々の思いに触れる学習となった。子どもたちがこれから地域の中でどう生きていくのか、どう地域を育てていくのか考えるよい機会となった。「御所見・中里で育てよかった。」と言う

児童の感想や学校にみなさんが集まっている様子を見て「こんな光景は初めて見た。」と地



域の方がおっしゃっていたのが印象的だった。これからも、地域とつながり、地域をつなぐ学校でありたいと強く感じることができた。



(4) 身に付ける必要のある力の学習

地域の中学校1校と小学校2校での、義務教育9年間で身に付ける必要のある力を、児童・生徒、保護者、地域関係者、教職員が共に学習し、同じイメージをもつ機会として、大学教授に、児童・生徒向けと保護者、地域関係者、教職員向けの講演会を同日に分けて行っていた。地域全体で理解を深めた。



(5) 育ちたい・育てたい児童・生徒像の把握

講演会や今までの知識、経験等をもとに、児童・生徒には、自身はどのような人に育ちたいのか、また、保護者、地域関係者、教職員には、児童・生徒がどのような人に育ってほしいのかを聞くアンケートを実施した。

アンケート対象は、3校の小学4年生から中学2年生までの5学年の児童・生徒。保護者は、3校の全保護者。地域関係者は、児童・生徒に関係する施設や、団体等に所属している方、3校の教職員とした。そして、地域の子どもたちが育ちたい児童・生徒像と、保護者、地域、教職員が連携して育てたい児童・生徒像を共有していくこと、その共有したイメージを地域の教育目標(子育て目標)として、児童・生徒の育成のための具体的な研究に取り組んでいこうと考えている。

3 実践の成果と課題

(1) 3校校内研究交流の体制づくり

3校が研究授業や協議会の情報を積極的に発信し、それぞれの教員が他校での取組に参加できる体制、雰囲気づくりができた。しかし、研究授業や講演会等が、自校の授業や行事と重なることも多く、参加できる教員が限られ、せっかくの機会が生かされない場面もあった。時間の調整等が今後の課題である。今後も「無理なくつながり、気軽に参加」をキーワードに、より多くの教員が交流し、地域で学びを深めて行きたいと思う。



(3校合同合唱交流会の様子)

(2) 「板書が命」の授業づくり

授業づくりの柱として「板書」を意識することを大切にしている。指導案には板書計画をのせ、ICT 機器の活用が叫ばれる中で「学びの足跡、子どもたちの学びのよりどころ」としての板書を大切に実践を行っている。先生方の意識の高まりを感じている。板書の充実と ICT 機器の活用は子どもたちの学びを支える両輪である。板書計画指導案を取り入れる等、今後も研究を重ねて行きたい。

(3) 地域の人とつながり、学ぶ授業

今回報告した実践以外でも、5年生の有機野菜の学習と収穫、地産地消の研究指定校としての食育など、地域の特色を生かした「農とつながる、人とつながる」学習を大切に続けている。さらには今年度、はじめの一步を踏み出した、藤沢市の各学校と「御所見・中里の農業、畜産、植木業（緑育）」をつなげる学習活動、御所見・中里の魅力を発

信する学習活動も広げて行きたい。

地域とより深くつながり、地域で学び育つ子どもたちの姿、ふるさとを愛する心を育んで行きたいと思う。

(4) 児童アンケートから見えてきたもの
一年間、「わかりやすい授業づくり」「子どもたちの学びに寄り添う（認める）授業づくり」を意識して研究に取り組んだ。

「たくさんの先生が認め、かかわってくれる」は A（そう思う）・B（どちらかといえばそう思う）あわせて 93.9%→96.4%と上昇しているが、「授業はわかりやすい」については、96.3%→95.8%と微減している。

今後も子どもたちのつぶやきに耳を傾け、「問い」をつくる等、子どもたちの学びの過程も大切にしながら、「できた！わかった！があふれる授業づくり」を進めていきたい。

4 今後の展開

今年度の取り組みを通して地域の特色を生かし「人とつながり、学ぶ」活動の深まり、家庭・地域とともに学びをつくる、子どもたちを育む力（信頼）を感じることができた。

2年目の取り組みについては、アンケートを実施して共有した「育ちたい・育てたい児童・生徒像」をどのように生かして、その実現を目指すかが重点となる。3校の児童・生徒、保護者、地域、そして教職員が同じイメージをもち、同じ目標に向かって学んだり、地域の子どもたちを支援し育んだり…こんな素敵なことはない。そのためにも9年間の成長を見据えた、共通の支援・指導方針を早期に作成し、見通しをもつとともに、自校だけの取り組みと3校連携での取り組みのバランスを考え研究を深めていきたい。